

# 「自然と都市の調和の中で 人がつながる活力あるまち・本巢」を目指して

## 巻頭言

本巢市  
Motosu City



本巢市長

藤原 勉

本巢市は、平成16年2月に本巢町、糸貫町、真正町、根尾村の3町1村が合併して誕生した市です。岐阜県の南西部のほぼ中央から北端に位置し、地形は、南北に細長く、木曾川水系の根尾川が南北に流れ、面積は約375km<sup>2</sup>で、その多くを森林が占めています。

当市は、樹齢1500年余の日本三大桜の一つ「淡墨桜」をはじめとする豊かな自然と多くの文化財に恵まれており、それらは、市の誇る宝です。

一方、「住みよさランキング2009年版」(東洋経済新報社)で全国1位になってから毎年上位に入るなど、自然と人が共生しているのがまちの特徴です。

県都岐阜市に隣接し、名古屋市中も比較的近いことから、製造業などの企業立地に加え、都市近郊型の農業が盛んであり、柿の王様といわれる富有柿やイチゴは全国でも有数の

産地を形成し、高い評価を得ています。セントポーリアやミニバラなどの花き栽培においても一大産地となっています。

その他にも、戦国時代の茶人・古田織部が残した茶道・織部流など、先人が培ってきたものが多く残っており、本巢市は「心ふれあうまち」として、形だけでなくその心も受け継いでいます。

さて、本巢市の国民健康保険の状況ですが、加入世帯数は4560世帯で総世帯数の37.0%、被保険者数は7907人で総人口の22.9%となっています。

医療技術の高度化や生活習慣病の増加により、当市も一人当たりの医療費は増加傾向にあり、平成29年度は37万2704円となり、医療費の抑制は重要な課題となっています。このため、衛生部門と連携し、データヘルス計画に基づいた保健事業を更に推進、特定健康診査や特定保健



指導などを活用し、予防医療を重点的に取り組んでいきます。

また、被保険者の公平性を保つため国民健康保険税の収納率向上に努め、健全な保険事業運営を行ってまいります。

本年度からスタートした国保制度改革については、財政運営の責任主体が都道府県に移行し、安定的な財政運営が期待されます。しかしながら当市では、県内でも安く抑えてきた国民健康保険税が、公費の拡充が行われているにもかかわらず、増税を検討しなければならぬ事態となっています。

医療費が増加傾向にある中、岐阜県が一丸となって医療費の抑制に取り組んでいく必要があり、当市も一保険者として、被保険者の疾病予防や健康づくりに努め、活力あるまちづくりに取り組んでまいります。

### 本巢市の あらまし

#### DATA (平成30年4月1日現在)

面積	374.65km <sup>2</sup>
世帯数	12,315世帯
人口	34,501人
国保加入世帯	4,560世帯
世帯加入率	37.0%
国保加入者数	7,907人
国保加入率	22.9%

#### 市章



外側の円は本巢市の「も」を図案化し、4つの小さな円は本巢町、真正町、糸貫町、根尾村を意味し、全体図は、4つの町村の人・土地・文化・歴史を優しく包み込み「未来に羽ばたく姿」を表しています。また、緑色を使うことで「いつまでも鮮やかな新緑のように、いきいきと活力みなぎる市」も表現しています。



市の木 富有柿



市の花 淡墨桜